OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	多胡圭一教授,國井和郎教授 略歴・主要著作目録
Author(s)	
Citation	阪大法学. 2005, 55(3,4), p. 489-513
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/55333
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

多胡圭一教授
國井和郎教授
略歴・主要著作目録

多 胡 圭 一 教 授

多胡圭一教授　略歴

昭和一六年　五月　五日　東京都に出生
昭和四一年　三月　大阪大学法学部卒業
昭和四一年　四月　大阪大学大学院法学研究科修士課程入学
昭和四四年　三月　大阪大学大学院法学研究科修士課程修了
昭和四四年　四月　大阪大学大学院法学研究科博士課程入学
昭和四七年　一二月　大阪大学大学院法学研究科博士課程単位修得退学
昭和四八年　一月　大阪大学助手法学部
昭和五二年　四月　大阪大学助教授法学部
昭和六〇年　二月　英国ロンドン大学アジア・アフリカ研究院（School of Asian and African Studies. SOAS.）客員研究員（昭和六〇年一一月まで）
平成　元年　一一月　日本平和学会理事、事務局長（平成三年一〇月まで）
平成　六年　八月　英国ロンドン大学アジア・アフリカ研究院（SOAS.）客員研究員（平成六年九月まで）
平成　七年　二月　大阪大学教授法学部
平成　七年　八月　大阪大学評議員（平成九年七月まで）
平成　八年　四月　大学基準協会相互委員会委員（平成一四年三月まで）
平成　九年　八月　英国ロンドン大学アジア・アフリカ研究院（SOAS.）客員研究員（平成九年九月まで）
平成一〇年　三月　大阪地方労働委員会公益委員（平成一二年六月まで）
平成一一年　四月　大阪大学大学院法学研究科教授
平成一二年　六月　大阪大学大学院法学研究科長・法学部長（平成一四年五月まで）
平成一四年　六月　大阪大学大学院法学研究科長・法学部長（平成一六年三月まで）
平成一四年　一一月　独立行政法人大学入試センター適性試験実施方法研究会委員（平成一六年三月まで）

平成一五年　四月　日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員
平成一六年　四月　大阪大学出版会委員（平成一七年三月まで）
平成一七年　三月　定年退職
平成一七年　四月　大阪大学名誉教授

主要著作目録

【単著】

『日本植民地「帝国」形成期の法と政治』（大阪大学出版会）　二〇〇六年三月刊行予定

【編著】

『日本政治：過去と現在の対話』（大阪大学出版会）　二〇〇五年

【共著】

『日本近代国家の法構造』日本近代法史研究会編（木鐸社）　一九八三年

『大阪市会史』第二九巻毛利敏彦編（大阪市会事務局調査課）　一九九七年

【論文】

「日本による朝鮮植民地化過程についての一考察——一九〇四—一九一〇における——」（一）　阪大法学九〇号　一九七四年

「日本による朝鮮植民地化過程についての一考察——一九〇四—一九一〇における——」（二）　阪大法学九四号　一九七五年

「日本による朝鮮植民地化過程についての一考察——一九〇四—一九一〇における——」（三）　阪大法学一〇一号　一九七七年

「第1次山本内閣における官制の改正」　阪大法学九七・九八合併号　一九七六年

「JOHN KIE-CHIANG OH “KOREA—Democracy on Trial—”」　阪大法学九九号　一九七六年

「一九〇五年日清条約締結直後の満州経営の一班について」（一）　阪大法学一〇二号　一九七七年

「日露戦争前後における植民地経営の一班について」　阪大法学一一六・一一七号　一九八一年

「第三一議会と山本内閣の崩壊」（一）　阪大法学一一八・一一九号　一九八一年

【学会回顧】

「学会展望」一九九三年日本政治史『年報政治学』日本政治学会編　（岩波書店）　一九九四年

【事典執筆】

「韓国統監府官制」日本近代法制史研究会編『日本近代法１２０講』　（法律文化社）　一九九二年

「韓国併合」日本近代法制史研究会編『日本近代法１２０講』　（法律文化社）　一九九二年

【その他】

国際シンポジウム報告「戦後日韓関係の諸問題」　韓国　嶺南大学　一九九七年

阪神奈大学生涯学習ネット「公開フェスタ２０００」　報告『植民地と時間』　二〇〇〇年

國 井 和 郎 教 授

國井和郎教授　略歴

昭和一六年　六月一三日　大阪市に出生
昭和四四年　四月一一日　大阪大学大学院法学研究科（博士課程）入学
昭和四六年　三月三一日　大阪大学大学院法学研究科（博士課程）中退
昭和四六年　四月一日　大阪大学助手（法学部）
昭和四六年　一二月一日　松永研究助成金を授与される
昭和五〇年　四月一日　大阪大学助教授（法学部）
昭和五七年　四月一日　茨木市建築審査会委員（平成一一年八月三一日まで）
昭和五八年　二月二八日　外国出張（パリ第一大学、ザールブリュッケン大学、チューリッヒ大学　一二月二七日まで）
昭和五九年　四月一日　大阪商工会議所経済法規委員会委員（平成八年五月まで）
昭和六二年　四月一日　大阪大学教授（法学部）
昭和六二年　一〇月一日　大阪弁護士会懲戒委員会予備委員（平成五年五月三一日まで）
平成　二年　二月二四日　大阪府地方労働委員会公益委員（平成八年二月二三日まで　平成四年から会長代理）
平成　三年　八月一日　大阪大学評議員（平成五年七月三一日まで）
平成　四年　四月一日　大阪大学総長補佐（平成六年三月三一日まで）
平成　五年　一〇月一日　大阪弁護士会資格審査会委員（平成七年九月一日まで）
平成　六年　四月一日　大阪機会均等調停委員会委員・会長（平成一五年九月三〇日まで）
平成　七年　一月　大阪女子労働懇話会座長（平成一一年まで）
平成　七年　五月一日　大学基準協会基準委員会委員（平成一一年四月三〇日まで）
平成　七年　七月一日　阪神高速道路公団入札監視委員会委員（平成一一年五月三一日まで）
平成　八年　六月一日　大阪大学法学部長・大阪大学大学院法学研究科長（平成一〇年五月三一日まで）
平成　八年　一一月一八日　公認会計士試験第二次試験委員（平成一一年一〇月八日まで）

平成　九年　四月　パリ第一大学招聘教授（enseignant invité）（Académie de Paris による）
平成　九年　五月　七日　司法試験第二次試験考査委員（平成一五年一二月三一日まで）
平成一一年　四月　一日　大阪大学教授（大学院法学研究科）（大学院重点化による配置換）
平成一一年　四月　一日　大阪商工会議所経済法規委員会委員（現在に至る）
平成一一年　七月　一日　大学設置・学校法人審議会専門委員（平成一四年三月三一日まで）
平成一二年　六月　一日　社会福祉法人恩賜財団済生会支部大阪府済生会理事・評議員（現在に至る）
平成一三年　四月　一日　大阪大学大学院法学研究科附属法政実務連携センター長（併任）（平成一五年三月三一日まで）
平成一三年　一〇月　一日　大阪紛争調整委員会委員・会長・主任調停委員（現在に至る）
平成一三年　一一月　一日　国立大学協会第五常置委員会委員（平成一六年三月三一日まで）
平成一四年　七月二五日　茨木市住居表示審議会委員・会長（平成一五年三月三一日まで）
平成一四年　四月　一日　財団法人自賠責保険・共済紛争処理機構紛争処理委員（現在に至る）
平成一五年　一〇月　一日　大阪地方労働審議会公益代表委員・会長（現在に至る）
平成一五年　一〇月二七日　茨木市公平委員会委員（現在に至る）
平成一五年　一一月一〇日　大阪保護司選考委員会委員（現在に至る）
平成一六年　六月二四日　茨木市総合計画審議会委員・会長（平成一六年一二月一一日まで）
平成一六年　九月　一日　新公認会計士試験実施検討小委員会検討グループ専門委員（平成一六年一二月三一日まで）
平成一七年　三月三一日　大阪大学定年退職
平成一七年　四月　一日　大阪大学名誉教授
平成一七年　四月　一日　大阪学院大学大学院法務研究科教授
平成一七年　四月二六日　弁護士登録
平成一七年　五月二八日　特定医療法人岡波総合病院理事（現在に至る）
平成一七年　九月　トゥールーズ第一大学招聘教授（enseignant invité）（平成一八年八月まで）
平成一七年　一〇月二〇日　茨木市住居表示審議会委員・会長

主要著作目録

Ⅰ　著　書

『判例民法Ⅱ（2）』（共同執筆）	日本評論社	一九七四年
『損害賠償の法律入門』（共著）	有斐閣	一九七七年
『民法講義6　不法行為等』（共著）	法律文化社	一九七九年
『演習民法破棄判例2』（共同執筆）	有信堂	一九七九年
『民法(1)　総則・不法行為』（共著）	有斐閣	一九七九年
『判例ハンドブック〔民法総則・物権〕』（共同執筆）	法学セミナー五月号別冊付録	一九八一年
『民法　債権』（共著）	同文舘	一九八二年
『新版　民法概説(2)』（共著）	有斐閣	一九八三年
『法学用語小辞典』（共同執筆）	有斐閣	一九九三年
『民法総則一〇〇講』（共著）	学陽書房	一九八四年
『民法講義ノート(6)　不法行為』（共著）	有斐閣	一九八四年
『要件事実の証明責任・債権総論』（共著）	西神田編集室	一九八六年
『目で見る民法教材』（共著）	有斐閣	一九八八年
『民法(1)　総則・不法行為〔改訂版〕』（共著）	有斐閣	一九八八年
『要件事実の証明責任・契約法上巻』（共著）	西神田編集室	一九九三年
『目で見る民法教材〔第2版〕』（共著）	有斐閣	一九九四年
『新民法概説(2)』（共著）	有斐閣	一九九五年
『民法講義ノート(6)　不法行為〔第二版〕』（共著）	有斐閣	一九九六年
『民法における「責任」の横断的考察　伊藤進教授還暦記念』（編著）	第一法規	一九九七年
『新・現代損害賠償法講座4　使用者責任ほか』（編著）	日本評論社	一九九七年

『現代取引法の基礎的課題　椿寿夫教授古稀記念』（編著）　有斐閣　一九九九年
『目で見る民法教材〔第2版補訂〕』（共著）　有斐閣　二〇〇〇年
『私法判例リマークス』二〇号以降（編著）　日本評論社　二〇〇〇年以降
『目で見る民法教材〔第2版補訂2版〕』（共著）　有斐閣　二〇〇〇年
『ベイシック法律用語辞典』（編著）　有斐閣　二〇〇一年
『新民法概説(2)〔改訂版〕』（共著）　有斐閣　二〇〇二年
『新民法概説(2)〔第二版〕』（共著）　有斐閣　二〇〇五年
『都市居住の安全と福祉』（共同執筆）　「都市居住の安全と福祉」研究会　二〇〇五年

Ⅱ　論　説

「フランスにおける使用者責任論」　阪大法学七九号　一九七一年
「表見代理の成立しうる場合に一一七条の適用はあるか」（共著）　『演習民法（総則・物権）』　一九七一年
「占有の承継と取得時効」（共著）　『判例演習講座　民法Ⅰ』　一九七三年
「道路災害と公の営造物責任
——飛騨川バス転落事件判決を機縁にして」　判例タイムズ二九五号　一九七三年
「自動車事故における共同不法行為に関する一考察（一）
——道路管理者と運転者との場合——」　民商法雑誌七一巻一号　一九七四年
「自動車事故における共同不法行為に関する一考察（二）
——道路管理者と運転者との場合——」　民商法雑誌七一巻二号　一九七四年
「自動車事故における共同不法行為に関する一考察（三）
——道路管理者と運転者との場合——」　民商法雑誌七一巻三号　一九七四年
「自動車事故における共同不法行為に関する一考察（四）
——道路管理者と運転者との場合——」　民商法雑誌七一巻六号　一九七五年

「自動車事故における共同不法行為に関する一考察（五・完）
——道路管理者と運転者との場合——」　民商法雑誌七二巻一号　一九七五年
「運行供用者」　『民法の争点』　一九七五年
「遊園地の滑り台の手すりがこわれていて児童がけがした場合、だれが責任を負うか」　『民法学6』　一九七五年
「道路の設置・管理の瑕疵について（一）
——義務違反的構成の試み」　判例タイムズ三二六号　一九七五年
「道路の設置・管理の瑕疵について（二）
——義務違反的構成の試み」　判例タイムズ三二七号　一九七六年
「空港の設置・管理と賠償責任」　法律時報四八巻二号　一九七六年
「道路の設置・管理の瑕疵について（三）
——義務違反的構成の試み」　判例タイムズ三三二号　一九七六年
「道路の設置・管理の瑕疵について（四）
——義務違反的構成の試み」　判例タイムズ三三五号　一九七六年
「使用者責任とその周辺問題
——他人を使用する者への帰責をめぐる法的構成」　法律時報四八巻一二号　一九七六年
「道路の設置・管理の瑕疵について（五）
——義務違反的構成の試み」　判例タイムズ三三八号　一九七六年
〈交通公害〉「差止請求」　『公害法の基礎』　一九七六年
〈交通公害〉「損害賠償」　『公害法の基礎』　一九七六年
「工作物責任(1)——責任の性質」　『不法行為法の基礎』　一九七七年
「工作物責任(2)——工作物の範囲」　『不法行為法の基礎』　一九七七年
「工作物責任(3)——瑕疵の意義」　『不法行為法の基礎』　一九七七年

「工作物責任(4)――責任主体」　『不法行為法の基礎』　一九七七年
「留置権における牽連関係」　『民法Ⅰ〔判例と学説2〕』　一九七七年
「水害と営造物管理責任」　法律時報四九巻四号　一九七七年
「道路の設置・管理の瑕疵について（六）――義務違反的構成の試み」　判例タイムズ三四八号　一九七七年
「根担保目的の仮登記の効力」　法律時報五〇巻三号　一九七八年
「過失・欠陥・立証責任」　別冊ＮＢＬ三号　一九七八年
「『安全配慮義務』についての覚書――『白ろう病』事件判決を素材にして（上）」　判例タイムズ三五七号　一九七八年
「『安全配慮義務』についての覚書――『白ろう病』事件判決を素材にして（中）」　判例タイムズ三六〇号　一九七八年
〈不法行為責任の交錯〉「序説」　法律時報五〇巻六号　一九七八年
「共同不法行為論学説史・2」　法律時報五〇巻八号　一九七八年
「使用者責任1」　法律時報五〇巻一〇号　一九七八年
「フランス共同不法行為論」　法律時報五〇巻一二号　一九七八年
「使用者責任2」　道路セミナー一〇四号　一九七八年
「道路管理やぶにらみ」　判例タイムズ三六四号　一九七八年
「『安全配慮義務』についての覚書――『白ろう病』事件判決を素材にして（下）」　Law School 七号　一九七九年
「因果関係論の現代的一側面」　『新版・民法演習4』　一九七九年
「損害賠償の範囲と金額」　判例タイムズ三七二号　一九七九年
「道路の設置・管理の瑕疵について（七）――義務違反的構成の試み」

「損害論の新しい動向とスモン三判決」　判例タイムズ三七六号　一九七九年
「各種の被害者補償制度の問題点」　ジュリスト六九一号　一九七九年
「多摩川水害訴訟判決と河川管理の現状」　判例タイムズ三八五号　一九七九年
「製造者・販売者と国」　判例タイムズ三九三号　一九七九年
「学校事故と賠償責任」　『教育・医療と生活――21世紀への展望』　一九七九年
「日本坂トンネル事故と民事責任の諸相」　ジュリスト七〇二号　一九七九年
「共同不法行為」　『民法Ⅱ〔判例と学説3〕』　一九八〇年
「ドイツ不法行為法　仮訳と解説〈13〉」　判例タイムズ四〇六号　一九八〇年
「責任競合論開発への一視点――欠陥商品事故をめぐる国の責任関与を素材として」　判例タイムズ四一〇号　一九八〇年
「道路管理責任の場合」　道路セミナー一四六号　一九八〇年
「ドイツ不法行為法　仮訳と解説〈14〉」　判例タイムズ四一三号　一九八〇年
「道路瑕疵による責任」　交通法研究八・九号　一九八〇年
「道路の設置・管理の瑕疵について（八）――義務違反的構成の試み」　判例タイムズ四二五号　一九八〇年
「道路公害の法律問題に対する一視点」　第四回道路環境問題研修会講演録　一九八〇年
「不法行為(2)――製造物責任」　別冊法学セミナー四四号　一九八〇年
「医療過誤による損害賠償の法的性格」　法学セミナー三一六号　一九八一年
「契約責任論の体系的素描――判例から見た安全配慮義務」　Law School 三〇巻　一九八一年
「医療過誤による損害賠償の法的性格――訴訟の成行きにあわせて」　法学セミナー三一六号　一九八一年
「道路の設置・管理の瑕疵について（九）――義務違反的構成の試み」　判例タイムズ四四一号　一九八一年

「時効援用の意義・方法」　手形研究三一九号　一九八一年
「道路の設置・管理の瑕疵について（一〇）
——義務違反的構成の試み」　判例タイムズ四五一号　一九八一年
「道路の設置・管理の瑕疵について（一一）
——義務違反的構成の試み」　判例タイムズ四五二号　一九八一年
「水害訴訟をとりまく若干の問題」　建設月報三四巻七号　一九八一年
「道路をめぐる訴訟——道路管理責任の問題」　道路セミナー一四六号　一九八一年
「河川管理責任と国家賠償責任」　河川四二一号　一九八一年
「製造物責任法と立法学」　法律時報五三巻一四号　一九八一年
「加治川水害訴訟控訴審判決及び志登茂川水害第一審判決について」　判例タイムズ四五八号　一九八二年
「道路の設置・管理の瑕疵について（一二）
——義務違反的構成の試み」　判例タイムズ四六七号　一九八二年
「道路の設置・管理の瑕疵について（一三）
——義務違反的構成の試み」　判例タイムズ四六九号　一九八二年
「大阪空港大法廷判決をふりかえって」　判例タイムズ四六九号　一九八二年
「道路の設置・管理の瑕疵について（一四）
——義務違反的構成の試み」　判例タイムズ四七五号　一九八二年
「基本書の選び方、使い方　民法」　『法学入門』　一九八三増刊　一九八三年
「道路の設置・管理の瑕疵について（一五）
——義務違反的構成の試み」　判例タイムズ四八〇号　一九八三年
「道路の設置・管理の瑕疵について（一六・完）
——義務違反的構成の試み」　判例タイムズ四八一号　一九八三年
「銀行取引約定書ひな型等の改善に関する要望書について・1」　法律時報五五巻三号　一九八三年

「第三者惹起事故と安全配慮義務」　判例タイムズ五二九号　一九八四年
「責任の諸態様」　『基本法学5　責任』　一九八四年
「水害訴訟をめぐる学説および裁判例の現況」　判例タイムズ五二六号　一九八四年
「商品等の引揚げをめぐる不法行為の成否」　判例タイムズ五二五号　一九八四年
「道路の瑕疵による責任」　『新版・判例演習民法4』　一九八四年
「基本書の選び方、使い方　民法」　『法学入門』　一九八四増刊　一九八四年
「営造物管理責任法理の現状と課題」　判例タイムズ五二七号　一九八四年
「道路瑕疵との競合」　交通法研究一四号　一九八五年
「運行供用者」　『民法の争点Ⅱ』　一九八五年
「公共施の管理における民事的責任」　月刊建設二九号　一九八五年
「債務不履行における損害賠償の範囲」　『民法講座4　債権総論』　一九八六年
「銀行取引上の損害と銀行の責任（その1）」　金融法務事情一一四〇号　一九八六年
「債務不履行における損害賠償の範囲」　月刊法学教室七五号　一九八六年
「自動車事故と道路の瑕疵」　ジュリスト増刊総合特集42号　一九八六年
「銀行取引上の損害と銀行の責任（その2）」　金融法務事情一一四六号　一九八七年
「銀行取引上の損害と銀行の責任（その3）」　金融法務事情一一五三号　一九八七年
「銀行取引上の損害と銀行の責任（その4）」　金融法務事情一一五六号　一九八七年
「事前求償権と事後求償権」　金融法研究（資料編）三号　一九八七年
「銀行取引上の損害と銀行の責任（その5）」　金融法務事情一一六六号　一九八七年
「国家賠償法第一条――違法性と過失」　『国家補償法の大系3』　一九八八年
「フランス法における支払前の求償権に関する一考察
――わが国の事前求償権との関連において」　阪大法学一四五＝一四六号　一九八八年
「銀行取引上の損害と銀行の責任（その6）」　金融法務事情一一八二号　一九八八年

「銀行取引上の損害と銀行の責任（その7・完）」　金融法務事情一一八五号　一九八八年
「共同不法行為の位置づけ」　法律時報六〇巻五号　一九八八年
「裁判例から見た安全配慮義務――契約責任論の体系的素描」　『安全配慮義務法理の形成と展開』　一九八八年
「共同不法行為論再構成への覚書」　民事研修三七四号　一九八八年
「不公正な経済活動と『権限不行使の不法行為』（上）」　判例タイムズ六六九号　一九八八年
「安全配慮義務」　月刊法学教室九一号　一九八八年
「契約締結上の過失」　月刊法学教室九二号　一九八八年
「事前求償権」　月刊法学教室九三号　一九八八年
「詐害行為取消権」　月刊法学教室九四号　一九八八年
「事前・事後通知」　月刊法学教室九五号　一九八八年
「債権譲渡の対抗問題」　月刊法学教室九六号　一九八八年
「債権譲渡と相殺」　月刊法学教室九七号　一九八八年
「賃借権の時効取得」　月刊法学教室九八号　一九八八年
「金銭債権の債務不履行」　月刊法学教室九九号　一九八八年
「金融機関行職員の不法行為と銀行の責任」　『判例・先例金融取引法〔新訂版〕』　一九八八年
「誤訳・翻訳漏れと不法行為」　月刊法学教室一〇〇号　一九八九年
「共同不法行為と求償」　月刊法学教室一〇一号　一九八九年
「使用者責任と求償」　月刊法学教室一〇二号　一九八九年
「民法と民事訴訟法の接点を学ぶ」　法学セミナー四一五号　一九八九年
「権利主体とその行使(1)　民法から」　法学セミナー四一六号　一九八九年
「頼まれて契約などをしてあげるのは」　法学セミナー四二〇号　一九八九年
「仕事の完成を引き受ける契約とは」　法学セミナー四二一〇号　一九八九年
「組合とはどういう内容の契約なのか」

「雇傭契約と安全配慮義務」
「安全配慮義務違反の成立要件
——契約責任と不法行為責任との比較」
「借地条件変更と賃借権譲渡許可との併合申立について」
「不法行為の新類型——不法行為の新たな場面としては」
「使用者責任——雇い主は従業員の不法行為の責任を負うのか?」
「安全配慮義務」
「故意・過失(1)——故意を要件とする不法行為類型」
「基本書の選び方、使い方　民法」
「銀行の注意義務に関する最近の裁判例の動向」
「『瑕疵』の判断基準と過失」
「国家賠償法二条責任」
「失火責任法と工作物責任」
「時効援用の意義・方法」
「銀行の責任」
「不法行為(5)——製造物責任・2」
「日本の労使関係の一端について」
「保証」
「事前求償権による抵当権実行の可否」
「損害賠償法制」
「判決原本利用とプライバシー保護」
「事業の執行」
「安全配慮義務」

『基本問題セミナー民法2』　一九八九年
『現代民事裁判の課題⑦』　一九八九年

阪大法学三九巻三＝四号　一九九〇年
法学セミナー四二六号　一九九〇年
法学セミナー四二六号　一九九〇年
月刊法学教室一一八号　一九九〇年
『裁判実務大系15』　一九九一年
『法学入門』　1982増刊　一九八二年
月刊民事法情報七三号　一九九二年
別冊法学セミナー一一二号　一九九二年
別冊法学セミナー一一二号　一九九二年
別冊法学セミナー一一二号　一九九二年
手形研究四七五号　一九九三年
『裁判実務大系22』　一九九三年
法学セミナー別冊一二七号　一九九四年
労使研四二号　一九九四年
別冊NBL三一号　一九九五年
銀行法務21五一一号　一九九五年
ジュリスト一〇七三号　一九九五年
ジュリスト一〇七八号　一九九五年
『新・現代損害賠償講座4』　一九九七年
月刊法学教室一九三号　一九九六年

「民法典の百年と判例」　法律時報七一巻一二号　一九九九年
「取引における不法行為の地位と役割」　『現代取引法の基礎的課題』　一九九九年
「司法書士の損害賠償責任をめぐる裁判例の分析」（共著）　阪大法学四九巻一号　一九九九年
「種類債権・制限種類債権・特定物債権」　月刊法学教室二三一号　一九九九年
「専門家たるべき司法書士の職務内容に関する考察」（共著）　阪大法学五〇巻二号　二〇〇〇年
「問題の整理と理論的課題――協会保証を中心にして――」　金融法研究（資料編）一六号　二〇〇〇年
「協会保証の問題点」　別冊ＮＢＬ六一号　二〇〇〇年
「担保法の現代的様相と問題点」　『21世紀のビジネス法務戦略』　二〇〇一年
「信用保証協会の保証の特質について」　『信用保証協会顧問弁護士連絡会議会議録』　二〇〇三年
「営造物管理責任」　『二十一世紀の法と政治』　二〇〇三年

Ⅲ　判例評釈等

「地すべりと道路管理瑕疵に基づく国の責任」　法律時報四四巻一号　一九七二年
「供託金払戻請求権の時効中断事由」（共著）　『供託先例判例百選』　一九七二年
「医療過誤をめぐる共同不法行為」　法律時報四六巻六号　一九七四年
「看護婦イルガピリン注射事故事件」　『医事判例百選』　一九七六年
「砂防地域内でゴルフ場を建設するにあたり施主と施工業者が砂防の目的に適合するに足りる予防対策をとらなかったために発生した災害につき賠償責任があるか（積極）」等　判例評論二三三号　一九七七年
「使用者がその事業の執行につき被用者の惹起した自動車事故により損害を被った場合において信義則上被用者に対し右損害の一部についてのみ賠償及び求償請求が許されるにすぎないとされた事例」　民商法雑誌七七巻六号　一九七八年

「高知営林局白ろう病事件第一審判決」　判例タイムズ三六七号　一九七八年
「営造物の通常の用法に即しない行為による事故と国賠法二条」　判例タイムズ三六七号　一九七八年
「不法行為における損害賠償の範囲」　『民法の判例〔第三版〕』　一九七九年
「国道上の雪崩事故と道路管理の瑕疵」　判例タイムズ四一一号　一九七九年
「吉田町し尿・ごみ処理場事件」　『公害・環境判例〔第二版〕』　一九八〇年
「経理担当社員の偽造小切手による当座預金引出しと会社の使用者責任」　判例タイムズ四三九号　一九八一年
「加治川水害訴訟控訴審判決及び志登茂川水害訴訟判決について」　判例タイムズ四五八号　一九八二年
「地震によるブロック塀の倒壊と土地工作物責任」　判例タイムズ四七二号　一九八二年
「安全配慮義務違反の主張・立証責任」　『民法判例百選Ⅱ〔第二版〕』　一九八二年
「第三者惹起事故と安全配慮義務」　判例タイムズ五二九号　一九八四年
「京王帝都踏切事故」　『不法行為法（法学セミナー増刊）』　一九八五年
「大東水害事故事件」　『不法行為法（法学セミナー増刊）』　一九八五年
「高知落石事故事件」　『不法行為法（法学セミナー増刊）』　一九八五年
「幼児の防護柵からの転落事故事件」　『不法行為法（法学セミナー増刊）』　一九八五年
「工作物責任と失火責任法」　『不法行為法（法学セミナー増刊）』　一九八五年
「山崩れの生き埋め救助作業中の二次災害と国家賠償責任――繁藤災害訴訟第一審判決」　判例評論三三二号　一九八五年
「高知営林局白ろう病訴訟控訴審判決」　判例タイムズ五五一号　一九八五年
「大東水害訴訟事件最高裁判決」　判例地方自治一一号　一九八五年
「不法行為における損害賠償の範囲」　『民法の基本判例』　一九八六年
「河川管理瑕疵に関する最高裁の準則（上）――加治川水害訴訟最高裁判決を契機として」　判例タイムズ五九四号　一九八六年

〈民法判例レビュー〉「裁判例の概観」　判例タイムズ五九八号　一九八六年
「国道に駐車中の故障車の放置と道路管理の瑕疵」　『新交通事故判例百選』　一九八七年
〈民法判例レビュー21〉「詐欺的商法の不法行為処理と理論構成」　判例タイムズ六六七号　一九八八年
「夫と通じた者に対する妻子の慰謝料請求権」　『家族法判例百選〔第四版〕』　一九八八年
「吉野川・大迫ダム水害訴訟判決」　月刊法学教室九八号　一九八八年
「改修工事完了河川についても『改修の不完全な河川』に該当するとして、管理瑕疵の基準が『過渡的安全性』で足りるとされ、許可工作物の設置を許可し、その改修措置の未着手に関し、管理の瑕疵を否定した事案」　判例タイムズ六七七号　一九八八年
「荷降ろし作業中の人身事故と自動車損害賠償補償法所定の運行供用者責任」　判例タイムズ六九八号　一九八九年
〈民法判例レビュー25〉「今期の主な裁判例」　判例タイムズ六九八号　一九八九年
「台風による集中豪雨時のダム放流に伴う河川災害について、ダム管理上の瑕疵があるとしてダムの設置管理者に対する損害賠償請求が認められた事例」　判例タイムズ七〇六号　一九八九年
「いわゆる一般的指定のなされている拘留中の被疑者と弁護人の接見交通につき、検察官が具体的指定書の持参を要求して、これに応じなかった弁護人の接見を許さなかったことを接見妨害として、弁護人からの国家賠償法による損害賠償請求を認容した事例」　判例タイムズ七〇六号　一九八九年
「公務員に対する国の安全配慮義務」　『民法判例百選Ⅱ〔第三版〕』　一九八九年
「安全配慮義務の内容」　『民法判例百選Ⅱ〔第三版〕』　一九八九年
「供託金払渡請求権の時効中断事由」　『供託先例判例百選』　一九九〇年
「貨物自動車の荷降ろし作業中の人身事故と自賠法三条一項の解釈」　私法判例リマークス1　一九九〇年

「外国を旅行目的とする主催旅行の実施中に発生したバス転落事故と旅行業者の損害賠償責任」　判例タイムズ七三六号　一九九〇年
「〈民法判例レビュー30〉今期の主な裁判例」　判例タイムズ七三六号　一九九〇年
「工場内の機械と『土地ノ工作物』」　『判例マニュアル　民法Ⅳ』　一九九〇年
「失火責任法と工作物責任」　『判例マニュアル　民法Ⅳ』　一九九〇年
「動物の代理占有者の責任」　『判例マニュアル　民法Ⅳ』　一九九〇年
「共同不法行為者の賠償すべき損害の範囲〔山王川事件〕」　『判例マニュアル　民法Ⅳ』　一九九〇年
「共同不法行為者の責任」　『判例マニュアル　民法Ⅳ』　一九九〇年
「自賠法三条の『他人』〔妻は「他人」事件〕」　『判例マニュアル　民法Ⅳ』　一九九〇年
「運行供用者――レンタカー事業者の責任」　『判例マニュアル　民法Ⅳ』　一九九〇年
「国賠法二条一項による営造物の管理責任〔高知落石事件〕」　『判例マニュアル　民法Ⅳ』　一九九〇年
「河川管理責任〔大東水害訴訟事件〕」　法律のひろば四四巻三号　一九九一年
「河川管理瑕疵の判断基準――改修、未改修による判断基準の相違」　ジュリスト九七六号　一九九一年
「改修河川の管理瑕疵の判断基準――多摩川水害訴訟最高裁判決」　法律時報六三巻六号　一九九一年
「委託ある物上保証人の事前求償権」　『判例ハンドブック〔民法総則・物権〕〔第2版〕』　一九九二年
「電気は「物」か」　『判例ハンドブック〔民法総則・物権〕〔第2版〕』　一九九二年
「遺骸は「物」か」　『判例ハンドブック〔民法総則・物権〕〔第2版〕』　一九九二年
「一筆の土地の一部の譲渡」　『判例ハンドブック〔民法総則・物権〕〔第2版〕』　一九九二年
「海面下の土地」　『判例ハンドブック〔民法総則・物権〕〔第2版〕』　一九九二年

「入会権と天然の樹木」　一九九二年
「価格統制に違反する法律行為の効力」　一九九二年
「取締法令に違反する法律行為の効力」　一九九二年
「脱法行為」　一九九二年
「前借金無効」　一九九二年
「国道四三号線公害訴訟控訴審判決」　一九九三年
「吉田町し尿・ごみ処理場事件――水質汚濁・大気汚染によるし尿・ごみ処理場の建設差止請求」　一九九四年
「共同保証人の一人に対する債務免除と他の保証人への影響」　一九九四年
「公の営造物の異常な方法での使用による倒壊事故と設置管理者の責任」　一九九四年
「銀行間信用照会制度における銀行の回答内容と不法行為責任の成否」　一九九五年
「夫と通じた者に対する妻子の慰謝料請求権」　一九九五年
「テレビ発火事件」　一九九五年
「豊田商法被害と監督官庁の責任」　一九九五年
「公務員に対する国の安全配慮義務」　一九九六年
「安全配慮義務と履行補助者」　一九九六年

『判例ハンドブック〔民法総則・物権〕〔第2版〕』　一九九二年
『判例ハンドブック〔民法総則・物権〕〔第2版〕』　一九九二年
『判例ハンドブック〔民法総則・物権〕〔第2版〕』　一九九二年
『判例ハンドブック〔民法総則・物権〕〔第2版〕』　一九九二年
『私法判例リマークス6』　一九九三年
『公害・環境判例百選』　一九九四年
『担保法の判例Ⅱ』　一九九四年
私法判例リマークス9　一九九四年
金融法務事情一三九六号　一九九四年
『家族法判例百選〔第五版〕』　一九九五年
金融・商事判例九六〇号　一九九五年
『消費者取引判例百選』　一九九五年
『民法判例百選Ⅱ〔第四版〕』　一九九六年
『民法判例百選Ⅱ〔第四版〕』　一九九六年

「道路騒音・排気ガスの規制請求など
——国道四三号・阪神高速道路事件」　私法判例リマークス13　一九九六年
〈民法判例レビュー55〉「今期の主な裁判例」　判例タイムズ九二四号　一九九七年
「婚姻関係が既に破綻していた夫婦の一方と肉体関係をもった第三者の他方配偶者に対する不法行為責任の有無」　月刊法学教室一九八号　一九九七年
〈民法判例レビュー63〉「今期の主な裁判例」　判例タイムズ九八八号　一九九九年
「新築鉄筋住宅につき、『隠レタル瑕疵』を理由に売買契約の解除を認めた事例」　判例タイムズ九八八号　一九九九年
「国道に駐車中の故障車の放置と道路管理の瑕疵」　『交通事故判例百選〔第四版〕』　一九九九年
「不法行為における損害賠償の範囲」　『民法の基本判例〔第二版〕』　一九九九年
「国会における国会議員の発言と国家賠償責任」　私法判例リマークス18　一九九九年
「広島アストラムライン橋桁落下事故損害賠償事件」　私法判例リマークス20　二〇〇〇年
「交通事故による連帯賠償責任と一人の過失相殺の影響」　私法判例リマークス21　二〇〇〇年
〈民法判例レビュー70〉「今期の主な裁判例」　判例タイムズ一〇三九号　二〇〇〇年
「大規模小売店の雪で凍った店外階段での顧客の店頭事故と施設所有者の責任」　私法判例リマークス三　二〇〇一年
「供託金払渡請求権の時効中断事由」　『供託先例百選〔第二版〕』　二〇〇一年
「公務員に対する国の安全配慮義務」　『民法判例百選Ⅱ〔第五版〕』　二〇〇一年
「安全配慮義務と履行補助者」　『民法判例百選Ⅱ〔第五版〕』　二〇〇一年
「新築建売住宅の欠陥と瑕疵担保責任等」　私法判例リマークス24　二〇〇二年
「夫と通じた物に対する妻の慰謝料請求権」　『家族法判例百選〔第六版〕』　二〇〇二年
「弁済供託における供託金取戻請求権の消滅時効の起算点」　『平成一三年度重要判例解説』　二〇〇二年
「交通事故と医療事故とが順次競合した場合と共同不法行為」　私法判例リマークス25　二〇〇二年

「高層マンション建築による風害と慰謝料請求」　私法判例リマークス28　二〇〇四年
「複数加害者および被害者の過失競合の過失相殺」　私法判例リマークス29　二〇〇四年
「公務員に対する国の安全配慮義務」　『民法判例百選Ⅱ〔第五版　新法対応補正版〕』　二〇〇五年
「安全配慮義務と履行補助者」　『民法判例百選Ⅱ〔第五版　新法対応補正版〕』　二〇〇五年
「裁判官提出の答弁書の記載内容による名誉毀損と裁判官の不法行為責任」　私法判例リマークス30　二〇〇五年

Ⅵ　学会報告・座談会

〈座談会〉「民法の学び方」　法学セミナー二六九号　一九七七年
〈シンポジウム　不法行為責任の交錯〉「使用者と不法行為責任」　私法四二号　一九八〇年
〈鼎談〉「民法を語る③――使用者責任をめぐって（上）」　Law School 一九号　一九八〇号
〈シンポジウム〉「大阪空港大法廷判決をふりかえって」　判例タイムズ四六九号　一九八二年
〈座談会〉「大東水害訴訟最高裁判決をめぐって」　判例タイムズ五二六号　一九八四年
〈座談会〉「動産売買先取特権と集合動産譲渡担保との競合・優劣」　判例タイムズ五三六号　一九八四年
〈討論会〉「予防接種ワクチン禍訴訟東京地裁判決の検討」　判例タイムズ五三九号　一九八五年
〈シンポジウム〉「いま、国家賠償責任訴訟は」　法学セミナー三一巻一二号　一九八六年
〈シンポジウム〉「中国経済法の読み方・合弁企業の取り組み方」　関西経済研究センター会報一八二号　一九八七年
〈シンポジウム〉「保証人の弁済と求償」　金融法研究四号　一九八八年
〈座談会〉「関西地区における不動産競売と「業者」の関与」　判例タイムズ六七二号　一九八八年
〈対談〉「こうすればわかる契約法」　法学セミナー四二〇号　一九八九年
〈シンポジウム　安全配慮義務の現状と課題〉「民法上の視点」　私法五二号　一九九〇年

〈座談会〉「法学部教授による座談会――現代学生気質――」　近弁連五三号　一九九一年
〈検討会〉「最近の担保判例とその評価《第一部》」　法律時報六三巻七号　一九九一年
〈検討会〉「最近の担保判例とその評価《第二部》」　法律時報六三巻八号　一九九一年
〈シンポジウム　担保法学の当面する課題〉「保証」　私法五八号　一九九六年
〈座談会〉「変わりつつある法学系大学院と法学部」　ジュリスト一一二五号　一九九七年
〈シンポジウム〉「問題の整理と理論的課題――協会保証を中心にして」　金融法研究一七号　二〇〇一年

Ⅴ　翻訳・書評

「平井宜雄著『現代不法行為理論の一展望』」（書評）　法律時報五三巻六号　一九八一年
「アンドレ・タンク『過失責任の将来』」（翻訳）　阪大法学一四八号　一九八八年
「グザビエ・ブランジュヴァン
　『フランス労働法における参加の諸態様』」（翻訳）　阪大法学四二巻一号　一九九二年
「日本弁護士連合会民事介入暴力対策委員会編
　『暴力団の不法行為責任　組長と使用者責任法理』」（書評）　ジュリスト一〇六号　一九九五年

Ⅵ　その他

「酷吏列伝に想う」　法苑復刊五号　一九八一年
「ワープロを駆使する学生」　青雲会会報（30周年記念号）　一九八四年
「革命と立法」　判例タイムズ五三六号　一九八五年
「法は水を去る？」　法苑復刊七号　一九八七年
「似而非なる解答」　法苑復刊八号　一九八七年
「中国の開放政策と法体制」　関西経済研究センター資料87―18　一九八七年
「中野先生の退官に寄せて」　法苑復刊九号　一九八九年

「民法／財産法（特集　一九九〇年学会回顧）」　法律時報六二巻一三号　一九九〇年
「民法／財産法（特集　一九九一年学会回顧）」　法律時報六三巻一三号　一九九一年
「民法／財産法（特集　一九九二年学会回顧）」　法律時報六四巻一三号　一九九二年
「フランス労働法における従業員参加の諸態様」　地労委三〇号　一九九二年
「除斥期間は『ギロチンの刃』か」　地労委三一号　一九九三年
「民事判決原本の一時保管」　大阪大学図書館報一二三号　一九九六年
「蛇も脱皮を重ねると竜になる？」　地労委三四号　一九九七年
〈変貌する法学部・法学系大学院〉「大阪大学」　ジュリスト一一二五号　一九九七年
「巻頭の辞」　阪大法学一九〇＝一九一号　一九九七年
「大阪裁判所の明治七年の民事判決原本」　大阪大学学報五二〇号　一九九七年
「大学院改革とこれからの方向」　書斎の窓四七五号　一九九八年
「製造物責任について」　大阪ロータリークラブ二一五五号　一九九八年
「今、なぜニューズレターか」　阪大法学部 NEWS LETTER 一号　一九九八年
「法学部懇話会の設立にあたって」　阪大法学部 NEWS LETTER 二号　一九九八年
「法学系大学院の社会化・ハイブリッド化」　リーガルマインド二〇五号　二〇〇一年
「新世紀の求める法学・政治学の教育研究と社会貢献に備えて
——三つの社会連携を核に——」　阪大 Now 三六号　二〇〇一年
「基本を学ぶ」　税大通信四五八号　二〇〇四年
「営造物管理責任、そして帰責原因論」　阪大 Now 八二号　二〇〇五年
「退職によせて」　法学研究科通信二号　二〇〇五年